

蹴上から北白川

京都府山岳連盟トレイル委員会



トレイルコースは国道1号線沿いの標識東山30-2から「ねじりマンポ」を通り抜け、標識東山31から右へインクラインの石垣に沿った坂道を登る。

「ねじりマンポ」奇妙な名であるが、マンポとはトンネルの事である。インクラインの下を旧国道1号線の三条通から南禅寺へ抜けるトンネル小路で、強度を増すため覆工(ふっこう)レンガが螺旋形に振れて積まれていることによる。



トンネル上部には、琵琶湖疏水の水路トンネルと同様に扁額がはめ込まれている。マンポを潜った東側には「雄観奇想 ゆうかんきそう」。西側は風化して読み難いが「陽気発處」ようきはつするところ」、揮毫者の当時の京都府知事北垣国道の「楽百年之夢」の落款がある。琵琶湖疏水の水路トンネルの扁額は石造であるが、ここはかつて近辺で焼かれていた「粟田焼」の陶板製である。



「ねじりマンポ」を直進すれば南禅寺に抜けられる。インクラインの石垣の反対側には、琵琶湖疏水から取水する、現在、稼働中の関西電力蹴上発電所の太い送水鉄管が見える。



すぐ左上の石碑は旧京都市電気局（現京都市交通局）が管理する疏水建設以来の殉職者慰霊碑である。

「インクライン」は、明治23年(1890年)に完成した大津市三保ヶ崎から蹴上船溜りまで、全長8.4km 水位差4mの琵琶湖疏水を利用する船便が、蹴上船溜りから動物園前の南禅寺船溜り間582m、落差36mの急勾配を、船に荷物を載せたまま上下できるケーブルカーのことである。完成当時は「船が山に登る」と京都市民を驚愕させた最新の設備であった。



同じ疎水の水を利用して、明治24年(1891年)に我が国最初の商用発電所が完成。インクラインの動力は当初は水車動力であったが、我が国初めての市内電車(鉄道)用電力と共に発電電力を使用するものとなった。

今はインクラインの錆付いたレールの間に、奇しくも我が国最初で同じ電力を使って始まり、今は廃止になった旧京都市電の敷石が敷かれて市民の格好の散策路になっている。



義経地蔵

トレイルコースは噴水広場を通り、インクラインと琵琶湖疏水の設計者である田辺朔郎博士の銅像を左に見ながら、インクラインの船台が乗ったレールを渡る。

『義経地蔵：右奥の古びた建屋の大きな石造の仏像は、大日如来であるが「義経地蔵」という。源義経(当時は牛若丸)が奥州下向の折、馬上の武士が行き交いざまに義経に泥を蹴り上げ、怒った義経が切り殺したという。その武士の供養のために建てられたらしい。一説に蹴上の地名の由来とも言われている。』



標識東山 32 神宮橋

立派な台座を持つ石灯籠脇の標識東山 32 から石段を登り、疏水に架かる「大神宮橋」を渡り、日向(ひむかい)大神宮の参道に入る。「大神宮橋」から見下す疏水には多くの小魚が泳ぎ、時には1mを優に越す草魚が悠然と泳ぐのを見ることがある。



第一、第二疎水合流点

疏水周辺の設備や建物は京都市水道局蹴上浄水場の取水設備で、奥に見える疎水第三隧道西口にある扁額は『美哉山河(うるわしきかなさんが)』、明治の元勳三条実美の揮毫である。



標識No.33-1 日向大神宮

この場所で琵琶湖第一疎水と琵琶湖第二疎水が合流する。通常に我々が目にするのは第一疎水で、第二疎水は全線が隧道で延長7.4km。水道用水取水を主目的で明治四十五年に完成している。その時に誕生したのが蹴上浄水場で、当時最先端技術であった急速濾過方式が我が国で初めて採用された。急速濾過方式は現代でも使われている優れた方式である。



日向大神宮外宮

琵琶湖疏水の水は蹴上水力発電所や、京都市水道水に使用されるだけでなく、御所、平安神宮の庭園の池はじめ、東西本願寺等まで多くの寺院庭園にも引かれている。

「大神宮橋」を渡ったところの左手の寺が「青龍山安養寺」、石造の不動明王が有名で、寺伝では大日山から盗賊により持ち出された石像が、この地でどうしても動かなくなり仕方なく不動堂を

建立し安置したという。小さなお堂の扁額には「東巖倉不動明王」とある。

安養寺のすぐ横に入口のある市営大日墓地の、奥まった一角に田辺朔朗博士と夫人の墓がある。舗装された急坂を登りきると「日向大神宮」である。

『日向大神宮：朝日宮、日岡神明宮とも呼ばれ元伊勢ともいう。縁結び、方除けの神として崇められ、社殿は伊勢神宮と同じ檜皮葺きの「神明造」で、天照大神はじめ女神を祀る内宮、男神を祀る外宮に天の岩戸まである。ちなみに社殿の屋根を飾る千木の先端が上を向いているのが男神。水平になっているのが女神を祀る社殿である。毎年十月十六日の大祭に奉納される「人長の舞」は武官装束の優雅な男舞で、人長とは神楽を舞う舞人の長のことである』

社前石段左の観光トイレは、現在、使用できないので要注意。

トレイルコースは神社前の標識東山 33 を直進する。古い石段を登りきると標識東山 34 がある小峠に登りつく。関電開閉所フェンス横の古い踏跡は、一切経谷を経て日の岡に降る。蹴上からの日の岡峠が拓かれる以前から、山科に抜ける道であったという。

標識東山 34 から右へ関電開閉所フェンスの前を登ると、「神明山朝日宮」の伊勢遥拝所がある。今は木立に囲まれて展望も無いが時間があれば寄ってみよう。事実、御所、平安神宮、伊勢遥拝所の線を延長すると、伊勢内宮に通じているのが確認できる。

トレイルコースは標識東山 34 から左の急坂を登る。アルペン的なルートで、滑り易い岩稜は特に要注意。登れば標識東山 35、次いで標高 218m のピークが標識東山 36、東山三十六峰神明山である。天智天皇が行幸したという伝承があり、その折に「日の山（日御山）」とも名付けられ、（日御山）の石標が埋められている。

平凡社「京都市の地名」によると、日向神社（ま）は「大日山の西麓に鎮座」とあるから、「大日山」と混合されて呼ばれている。「大日山」は東岩倉山とも称し、北岩倉山、南岩倉山、西岩倉山と共に、桓武天皇の勅願で都の鎮護として経を収めた岩倉があり、山頂に大日如来像が安置されていたというが、ここ東山三十六峰大日山には何の痕跡も残っていない。

標識東山 35、標識東山 36、両標識から東へ分岐する踏跡は、いずれも先で通行止めとなっている。標識東山 37 を直進すると、「笠狭之御崎舊跡—かささのみさききゅうせき」とある石標がある。「笠狭之御崎」は九州にある天孫降臨の遺跡。ここ神明山にも天孫降臨の遺跡が存在する。



標識東山 39 七福思案処

トレイルコースは標識東山 37 を右に急坂を下ると、標識東山 38 があり目の前が標識東山 39 の「七福思案処」である。

「七福思案処」なんともおめでたい地名だが出所ははっきりしない。ここでルートが七つに別れているところから、行く道を思案したからともいう。見晴は無いが絶好の休憩場所でありゆっくり思案していきたい。



南禅寺水路閣

「七福思案処」の七つの分岐とは、①南禅寺奥の院を經由し南禅寺へ降る道。②日御山（神明山）の北麓を迂回し南禅寺に向かう道。途中、日向神宮への分岐がある。③④蹴上方面道及び大文字方面へのトレイル道、⑤毘沙門堂を経て山科に下る道と、⑥この道から分岐し御陵黒岩から御陵に下る道。⑦もう一つが標識 39 「七福思案処」正面を北に進む道である。



南禅寺山門

『南禅寺：臨済宗南禅寺派大本山の寺院である。山号は瑞龍山、寺号は詳しくは「太平興国南禅禅寺（たいへいこうこくなんぜんぜんじ）」と号する。

建武元年（1334 年）後醍醐天皇は南禅寺を京都五山の第一とした。至徳三年（1385 年）足利義満は自らの建立した相国寺を五山の

第二位に位置づけるとともに南禅寺を「別格」として五山のさらに上位に位置付けた。皇室の発願になる禅寺としては日本で最初のもので、京都五山の上位(五山第一位の天龍寺よりさらに上に位置する)別格扱いの寺院で、日本の禅寺のなかで最も高い格式を誇っている。

南禅寺には歌舞伎「楼門五三の桐」で、石川五右衛門が「絶景かな」と見栄を切った「三門」、レンガ造でテレビドラマでは、おなじみの琵琶湖疏水の大アーチ橋「水路閣」、南禅寺方丈の小堀遠州作、枯山水庭園「虎の子渡しの庭」、徳川家康の信任厚く、「黒衣の宰相」と呼ばれた以心崇伝(金地院崇伝)が住まい、家康の遺言により建立された三つの「東照宮」の内の一つで、西国の大名が参勤交代の折、京都を通過する際には必ず立ち寄ったという「東照宮」がある「金地院」等々、見どころは多く、「東山三十六峰」の西麓に広大な敷地が広がっている。』

標識東山 39「七福思案処」から分岐する七つ目の道は、南禅寺へ降る道の右に並行するように、山腹を南禅寺の東方に向かう道で、前述の日向神宮参道脇にある「青龍山安養寺」北方の、東山三十六峰「大日山」とは異なり、古来、「大日さん」と言われたもう一つの「大日山」への道である。

そもそも、東山三十六峰の呼び名が記された資料は、江戸時代末期の「花洛名勝圖會」が最初と言われており、具体的に東山の峰々に名前が同定されたのは近世に至ってからである。従って「安養寺」北方の、現東山三十六峰「大日山」も近世に名付けられたもので、ここは史料にある鎌倉時代に観勝寺という大寺があり、「応仁の乱」には大軍勢が立てこもったという広い地形ではない。歴史書にある「大日山、観勝寺山、東岩倉山」とは、七福思案処から分岐する踏跡の先の、南禅寺東方の峰を指すものと考えられる。

この峰の南麓の谷間には、数十基ほどの古い墓石が散乱しており、大きな岩がいくつも崩れ落ちている。これは先年の阪神淡路大震災の余波ではないかと思われるが、墓地の上部には伝えによる行基座禅石らしきものも残っており、2mほどの供養塔も立っている。峰の西麓には大きな凹穴と、古い城址のようにも見える伽藍跡らしき平地が広がっており、ここが弘安・元弘の蒙古襲来の折には、亀山上皇も度々行幸をし、戦勝祈願をしたと伝える由緒ある観勝寺址ではないだろうか。

平地の上の台地に登ると磐座らしき石積みがあり、古い大日如来の碑と大日如来石像がある。これは東岩倉山を彷彿とさせる。往時、権勢を誇った観勝寺も、応仁の乱でさしもの大伽藍も焼亡衰退したという。現在は由緒書きの看板も無く、誰からも顧みられない隠れた遺跡である。

大日如来の碑から忠実に踏み跡を東に登ると、トレイルコースの標識東山 40 に至る。

標識東山 39「七福思案処」から大文字方面には、良く踏まれたトレイルコースを登る。一登りで道が平になる左手の高みの上に、長径 10m 深さ 5m ほどの大穴が在る。不思議な謎の大穴である。最近聞き及んだ情報によると、この穴と戦時中の爆弾投下の跡だということである。

終戦 2 週間ほど前の昭和 20 年 7 月 29 日、舞鶴軍港への大空襲があったが、その折の残弾を米軍機が帰途に投棄した跡ということである。京都には少ない戦時中の負の遺産が、こんな処に世間に知られることも無く隠れていたとは思ってもよらないことである。

道の両側に岩が立ち塞がる石門から、少し登ると山科方面の眺望が開け、丸太のベンチが設けられた良い休憩場所がある。



山科盆地好眺望の休憩地

東山 41 は鞍部状の地形で、大日如来の碑からのルートが合流する。トレイル標識東山 41 は直進するが、右へ入る道の北斜面一体は「森林インストラクターの森」として、青少年に森林育成に関する教育施設として整備されている。ここから林道を経て後山階陵から毘沙門堂門跡を JR 山科駅に出る。林道に降りる途中の若松が一面に生育した場所は山火事の跡である。



台風 21 号通過後の惨状 1

標識東山 41 から標識東山 42 までは起伏が少なく比較的平坦な道で、途中、左手の防火線の切り開きからは、平安神宮の鳥居を正面に京都市内の好展望が望める。



台風 21 号通過後の惨状 2

トレイルコースは標識東山 42 を直進するが、標識東山 42 を左に降れば市営若王子山墓地に至る。その一角に新島襄、八重夫妻、山本覚馬、徳富蘇峰が眠る「同志社墓地」がある。

市営若王子山墓地から墓地参道を右に降れば若王子神社。左の山道を降れば南禅寺奥の院に至る。標識東山 42 から市営若王子山墓地までは、滑りやすい急坂が多いので注意して下ろう。

市営若王子山墓地へ下るルート途中の北(右)側に、三角池(うえだ池)と称する神秘的な池がある。水は清澄だが落ち葉が一面に沈殿し、かつてはびっくりするほど大きな金魚が泳いでいた。



標識東山 42 若王子分岐

若王子神社は後白河法皇が遠く紀州熊野詣でをする代わりに勧請されたもので、創建には資材全て土石に到るまで熊野から運ばれたと伝え、那智の滝になぞらえた滝までである。三角池はこの滝の水源である。

若王子墓地前の西側広場が東山三十六峰「若王子山」で、その南の台地が東山三十六峰「南禅寺山」「独秀峰」ともいう。若王子墓地の手前の分岐を南側に降る道は、若王子墓地前からの道と合流し「駒が滝」から南禅寺奥の院を経て南禅寺へと降れる。南禅寺奥の院を直進し谷道を登れば「七福思案処」に至る。



標識東山 42~43 付近の尾根道

標識東山 42 を過ぎれば大文字山のピークが木の間に散見できる。標識東山 43-1 を過ぎ、コースは平坦な尾根に乗り左折すると、直ぐに標識東山 43-2 を右折して少し降る。平坦な尾根道は直進しないこと。

広い林道の終点が標識東山 44-1 で、以前から比叡平から池の谷地藏を経て、如意古道との交差地点近くまでであった林道が、近年に延長されものである。

標識東山 44-2 を右に行けば、後山階陵から毘沙門堂門跡を経て JR 山科駅に降る。標識東山 44-2 を直進し北側の谷へ降っても同じ道と合流する。

標識東山 44-2 の分岐で左折すると、コースは再び広い林道と交差する。「如意古道」へは林道



東山 44-1 の林道交差点

を右に進めば標識がある。林道との交差点から少しの登りで、大文字山四辻の標識東山 45 である。

標識東山 45 から右へ山裾をたどる道が本来の如意古道で、しばらく行くと林道と合流する。

また標識東山 45 から大文字山へ一段登った処から、右の踏跡を進んでも林道に至る。



林道交差補助標識

『如意古道：林道が下りとなる地点で分岐する山道を右折すれば、鹿ヶ谷と三井寺を結び、往古から比叡山の南を通過する「白鳥越」「山中越」と共に、重要な幹線ルートとして使われてきた「如意越」の古道である。後世は京より三井寺の参詣道に利用された。林道分岐から 500m 程度東へ行き、雨神社分岐を過ぎ如意ヶ岳と如意寺址分岐を右にとると本来の如意古道であるが、分岐を左に行き航空無線標識所跡の如意ヶ岳を経て、舗装された航空無線標識所進入路の途中から、ガードレールの間を降り、旧来の如意古道と合流するコースもある。』



如意古道
如意寺址「おねがい観音」

本来のトレイルコースは大文字山には寄らないが、標識東山 45 を直進すれば 5 分で大文字山である。旧菱形基線測点台のある大文字山 (466m 三等三角点、点名鹿ヶ谷) は、南に山科盆地、西には京都盆地が眺められる絶好の展望台である。いずれの盆地も南北に細長く、東縁と西縁を南北に断層で出来た直線状の崖が走っている。山科盆地の東縁には「黄檗 (おうばく) 断層」が、京都盆地の東縁には「花折断層」・西縁には「檜原 (かたきはら) 断層」があり、いずれも千年に一回位は動く活断層である。



如意古道灰山遺跡

三角点のある大文字山周辺の尾根は、大文字火床のある尾根の一つ北側の尾根にある中尾城とともに、室町時代の城址で如意岳城址という。大文字山の北側には幾段にも曲輪址が植林の中にはっきりと視認できる。



大文字山からの展望

東山三十六峰如意ヶ岳というが、本来の如意ヶ岳は大文字山の 1km 余り東方にあり、三角点は無く京都盆地からも望めない。しかし、一般には大文字山を如意ヶ岳と称していることが多い。

大文字山を西に直進する道を降ると、20 分程で大文字送り火の火床に出る。急坂があるので転倒注意。火床からは整備された道を銀閣寺に降りられる。



大文字送り火火床の展望

火床の少し上で道が鞍部になる地点から、北に谷間を降る踏跡が中尾城址へのルートであるが、迷い易いので注意が必要。

ちなみに銀閣寺からの大文字火床への参道途中の水場は、中尾城の水場の名残である。

トレイルコースは標識東山 45 を左に、談合谷の源頭を楼門の滝へ降る。急坂だが大岩の下辺



談合谷の大岩

で少し平地になった地点から、右の谷に入れば美味しい湧水があり、人々ののどを潤してきたが、数年前の台風で残念な事に大規模な土砂崩れで埋没。

今は京都市の手で「四季・彩の森」として整備されているが、豪雨の際には更に崩落の可能性もあり、台風による倒木も、通過には支障の無いように処理はされているが、地形が変わるほどの被害を受けている。激しい風雨の後には十分注意して通行しよう。



標識東山 46 俊寛僧都碑

標識東山 45 から、800m程降れば標識東山 46 で「俊寛僧都忠誠之碑」が建っている。その下が幽邃な楼門の滝で、またの名を如意滝と言う。

往古、鹿ヶ谷から滋賀県大津市の三井寺にかけての山中に、東西 2.5 km、南北 1 km にわたって巨大な山岳寺院があった。如意寺という。平安時代中期には既に存在し、平氏の保護もあり三井寺の別院として、数十棟の壮大な伽藍が立っていたらしいが、南北朝の争乱と応仁の乱以降の戦乱によって徹底的に破壊され、以後再建されることなく廃寺となったという。



楼門の滝

「楼門の滝」も如意寺の楼門がこの地にあり、よって「楼門の滝」と呼ばれるようになった。三井寺に残る古絵図には滝横の急峻な石段が記されており、滝と石段が残るのみで後は何の痕跡も残っていない。



波切り不動尊

治承元年(1117年)平安時代の末期、ここ鹿ヶ谷の山荘で法勝寺の執事俊寛は、大納言藤原成親、平康頼等と平家打倒の密議を度々催したが、ついに発覚して鬼界ヶ島に流された。この事件は「鹿ヶ谷の謀議」として歌舞伎や浄瑠璃でも上演され有名である。平家打倒の密議を凝らしたところから、この谷を談合谷と呼ぶようになった。

標識東山 46 の「俊寛僧都忠誠之碑」はなぜ「忠誠之碑」なのか、碑文は残念ながら長年の風雨で磨滅し読めなくなっている。



標識東山 48 霊鑑寺

「楼門の滝」、暑い季節には至福の時間が過ごせる。ここから下るトレイルコースは急坂の古い石段は近道であるが滑り易く危険で、う回路を降りることをお勧めする。コース幅も狭く気を付けて降ろう。標識東山 47-1 までは崖縁の場所も多く気を抜かず歩こう。

舗装道路との合流地点が標識東山 47-2 である。談合谷と合流する本谷を古来「狼谷」と称したが、1954年11月真言宗高野山から「徳善谷波切不動」が勧請され瑞光院が建立された。以来、徳善谷と呼ばれている。2019年1月、屋外に安置してあった「不動明王尊像」が盗難にあった。今は台座のみが寂しく落ち葉に埋もれている。早く見つかって欲しいものである。



信者用だがきれいなトイレが整備されている。志納金を収め丁寧に使用させて頂こう。



急な舗装道路を降れば、標識東山 48 のある角が「谷の御所尼門跡寺院霊鑑寺」である。

『霊鑑寺：臨済宗南禅寺派の門跡尼寺で、1654 年後水尾天皇の皇女を開基として創建され、代々皇女が住職を務めて、谷御所、鹿ヶ谷比丘尼御所とも呼ばれている。御所人形・貝あわせ等、皇室ゆかりの品が多く、池泉鑑賞式庭園や、名椿が多数あることでも有名である。春（椿）と秋（もみじ）が素晴らしく通常は非公開だが、春秋の 1 時期だけ特別拝観が出来る。』



標識東山 48 を左折すれば洛星ノートルダム女学院。思想家であり宗教家「許されるならば、生きる」。社会奉仕に生きかたを見い出した崇高な西田天香師の一燈園が、山科に移転する前の大正から昭和初期にかけて、洛星ノートルダム女学院敷地に道場があった。



トレイルコースは北に右折し、しばらくで浄土宗の開宗時「承元の法難」の発端となった、後鳥羽上皇の女官、鈴虫、松虫の供養で知られる安楽寺がある。次いで大文字火床の西で、深い樹木に覆われた東山三十六峰善気山の麓に、法然院が静寂なたたずまいを見せる。



『法然院は江戸時代初期の 1680 年知恩院第三十八世萬無和尚が、浄土宗元祖法然上人ゆかりの地に念佛道場を建立することを発願し、弟子の忍濺和尚によって現在の寺の基礎が築かれた。京都の寺の中では比較的新しい歴史を持つが、数奇屋風の茅葺門、水紋を象る美しい砂壇、新緑と紅葉が映える時季はもとより四季を通じ、静かな境内は、山歩きの余韻を楽しめる贅沢な時間を与えてくれる。』



標識東山 49 で左折し、疎水を渡り標識東山 50 で右折、疏水沿いの「哲学の道」をたどれば、標識東山 51 で銀閣寺門前通りである。通りを左に疎水に沿って白川通まで出て右折する。途中の白川と疎水の交差は逆サイホンで、疎水が白川の下を潜っている珍しい構造である。常に観光客が多く行き交う賑やかな道で、疎水には大きな鯉が泳ぎ春の桜の季節は素晴らしい。

標識東山 52 - 1 から白川通の浄土寺橋を渡り、蕎麦屋さん前の斜めの道を北上する。次に交差する道が「山中越え」で標識東山 52-2 の交差点を右折し、「山中越え」の道をしばらく行くと右手

奥に白川天神がある。

『白川天神：白川女の発祥地であり、古くから都人に親しまれた神社で入口参道には多くの句碑が立っている。鳥居の奥は幽邃な深い森で「トロ」が現れても不思議でない雰囲気である。北白川一帯の産土神で祭神は天神宮とあるが菅原道真公では無く、一寸法師のモデルとも言われ、大国主命の国治めの片腕とも言われた少彦名(スクナヒコナ)命が祀られている。正面の鳥居の右手にある井戸も隠れた名水で大変美味である。』

北白川仕伏町交差点の標識東山 53 は、道路右手の乗願院門前の歩道にあり、直進すると山中越えに向かう。トレイルコースは乗願院門前の三叉路を左の御影通りに曲がり、北側歩道にある標識東山 54 を右折する。正面の日本バプテスト病院への坂道は登らず、右の病院駐車場を通り抜ければ、比叡山へのトレイルコース入口となる。

北白川仕伏町は市バス 3 号の折り返し地点で、地域住民のご厚意で、市バス誘導係員詰所のトイレを京都一周トレイル利用者に開放頂いている。

「所要時間参考」

蹴上ねじりマンボ, 東山 30-2 (15 分← →20 分)日向大神宮, 東山 33-1

※日向大神宮, 東山 33-1~日向大神宮境内天の岩戸経由 (20 分← →20 分) 七福思案処, 東山 39

※日向大神宮, 東山 33-1~旧峠, 東山 34 経由 (25 分← →25 分) 七福思案処, 東山 39

七福思案処, 東山 39 (30 分← →30 分)若王子分岐, 東山 42 (30 分← →35 分) 大文字山分岐,

東山 45(60 分← →35 分) 浪切不動, 東山 47-2 (45 分← →25 分) 銀閣寺道, 東山 51 (20 分

← →20 分)北白川仕伏町バプテスト病院道, 東山 54

《蹴上, 東山 30-2 (3 時間 45 分← →3 時間 10 分) 北白川仕伏町, 東山 54 (8.5 km)》

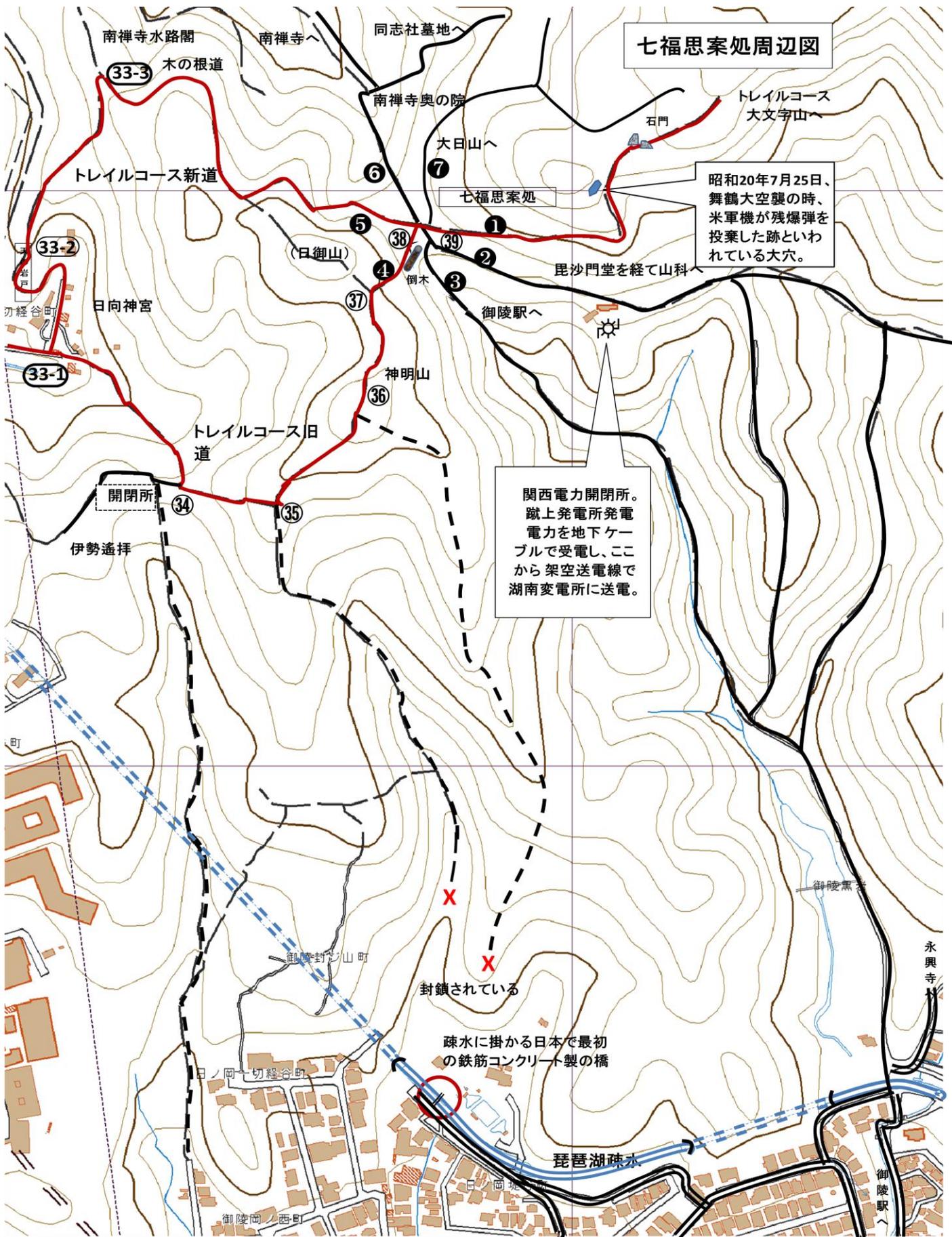
蹴上～北白川間のトレイルコース記載の地図は「京都一周トレイル 東山」です。

地図販売所に関するお問合せ、その他京都一周トレイルに関するお問合せは

京都市産業観光局 観光 MICE 推進室 (TEL075-746-2255)

kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/ 京都一周トレイル-京都観光 Navi を参照してください

七福思案処周辺図



関西電力開閉所。
蹴上発電所発電電力を地下ケーブルで受電し、ここから架空送電線で湖南変電所に送電。

御陵駅四番出入口を出て西へ約200m四筋目の道を北へ入るとこの道。

御陵駅2番出入口を出て西へ約100m二筋目の道を北へ入るとこの道

